

千葉歴史の散歩道

東京湾を臨む海城～里見氏城跡岡本城跡～

千葉県教育庁教育振興部文化財課文化財主事 おかやま りょうこ 岡山 亮子



南房総市に所在する岡本城跡は、中世戦国時代に里見氏が居城としていた城である。安房丘陵端部の東西約600m・南北約300mの範囲に築城され、戦国時代末期の房総半島における中世山城の特徴が良好に残されていることから平成24年に国の史跡に指定されている。

里見氏は、江戸時代に読本作家の曲亭馬琴が著した『南総里見八犬伝』に登場する伏姫の一族として知られているが、実際には小田原北条氏・越後上杉氏・甲斐武田氏などの巨大勢力が競合する戦国期の関東の複雑な政治情勢に対応しながら慶長19年（1614）まで安房を中心とした房総半島南部に勢力を保ち続けた戦国大名である。

里見氏の城郭は、岡本城だけでなく、白浜城（南房総市）や金谷城（富津市）、そして館山城（館山市）と東京湾に面して多く築城された。こうした城郭は、丘陵に囲まれた港を有しており、水軍を駆使して、東京湾の制海権を争っていた里見氏の性格を表している。

岡本城跡は、軟らかい地質を生かし、丘陵

頂部の^{くるわ}曲輪とそれに付随する^{こしくわ}腰曲輪だけでなく、丘陵尾根の両端を削り細くすることで敵の侵入を防いだ^{どばし}土橋や丘陵斜面を直角に掘り込み、敵を登らせないための^{きりぎし}切岸などの防御施設が随所に見られる。また、この城の特筆すべき構造として、尾根を分断する防御的機能と井戸の機能を併せもった水堀が造られていることである。当時の軍事情勢に鑑みれば、水の確保というのは、必要不可欠だったことだろう。

城跡の一部では発掘調査により柱穴列や平場造成の痕跡が検出されており、遺構からは、かわらけなどが出土している。物見台の存在や宴会などが行われていたことを窺わせる。

城跡周辺には、里見義頼の墓と伝承されている石造物など里見氏関連の文化財が多く残されている。城跡だけでなく、こうした文化財も一緒にめぐっていただくことで時代に想いを馳せていただきたい。



東京湾に面する岡本城跡



光厳寺に所在する里見義頼の墓

千葉教育 梅（No. 671） 令和3年12月2日発行

編集・発行

千葉県総合教育センター（代表）酒井 昌史

〒261-0014 千葉市美浜区若葉2-13

TEL 043-276-1204

URL <https://www.ice.or.jp/nc/>

印刷所

千葉市療育センター いずみの家

〒261-0003 千葉市美浜区高浜4-8-3

TEL 043-216-2465